



「富嶽三十六景 颯風快晴」 障川浮世絵美術館所蔵

真の国際化とは自分の国を知ること。
浮世絵は海外でも評価の高い、日本が誇る芸術だ。
西洋絵画にも影響を与えた浮世絵の成り立ちをひもとく。

text by 渡辺幸裕・photographs by いずもとけい、新関雅士

「浮世絵って何?」。改めて聞かれると、意外と答えに窮してしまふ。海外でも高く評価されている日本美術であるにもかかわらず、きちんと説明ができないのでは何とも面目ない。日本かぶれ第二期は、浮世絵からスタートする。

浮世絵とは江戸時代に流行した版画である。今でこそ芸術作品としての地位を確立しているが、当時は庶民の生活に根づいた情報メディアであった。

浮世とはそもそも、仏教思想の「憂き世」から派生した言葉だ。世の中を憂える厭世的な「憂き世」から、はかない世であるならせめてそれを謳歌しようという「浮き世」への変化に際して、娯乐的で好色な意味合いを深めていった。

浮世絵は左ページ上にあるような変遷をたどる。絵本挿絵から発展して一枚絵の浮世絵が成立し、やがて今最も多く目にする多色摺りの錦絵となる。

もともと情報メディアとしての性格を併

浮世絵の種類

- 美人画** 初期は遊郭の女性が多かったが、徐々に庶民の暮らしや評判娘などを描いたものが増える。
- 役者絵** 歌舞伎役者を描いたもの。芝居の報道絵がメインで、役者のプロマイドとしての役割を持つものもあった。
- 花鳥画** 植物と、鳥獣や虫といった生き物を合わせたもの。
- 物語絵・歴史画** 古典文学や逸話などを描いたもの(物語絵)や、歴史的出来事を描いたもの(歴史画)。
- 戯画・風刺画** ユーモラスに描かれたもの。動植物を擬人化したものなどがある。
- 風景画** 景色を描いたもの。初期は名所絵、真景園などと呼ばれた。
- 春画** 男女の情交を描いたもの。享保の改革で刊行が禁じられて以降は絵師の名を伏せて出すことが多くなった。
- 死絵** 著名人が死んだ時に描かれるもの。辞世の句や享年、墓所や追善文などを配したものが多い。

浮世絵の歴史

	代表的な作家
初期 1670年代~1764年 (寛文頃~明和元年)	菱川師宣、杉村治兵衛、鳥居清信、懐月堂安度、宮川長春、奥村政信
錦絵第1期 1765年~1803年 (明和2年~享和3年)	鈴木春信、鳥居清長、歌川豊春、勝川春章、喜多川歌麿、歌川豊国、東洲斎写楽
錦絵第2期 1804年~1842年 (文化元年~天保13年)	葛飾北斎、葛飾応為、歌川国貞、歌川国芳、歌川広重
錦絵第3期 1843年~1863年 (天保14年~文久3年)	河鍋晩斎、五雲亭貞秀、二代歌川広重
浮世絵末期 1864年以降	月岡芳年、小林清親、井上安治、豊原国周、三代歌川広重



「歌川広重死絵」歌川国貞(神奈川県立歴史博物館所蔵)



「荷宝蔵壁のむだ書」歌川国芳(山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵)

せ持つて発展したため、当時最大の娯楽であった芝居や、社交場としての遊郭がその題材としてよく描かれた。役者たちの似顔絵やその演目、そして遊郭で人気を博する花魁などを描いた浮世絵は、広告ポスターやプロマイドとしての役割を担っていた。

やがて旅行が盛んになったことが追い風となり、風景画の人氣が高まる。その先駆けとなったのが、葛飾北斎の「富嶽三十六景」である。歌川広重も風景画「東海道五拾三次之内」で名を馳せたが、実は、広重の20年以上も前に、北斎が「東海道五拾三次」を描いていたという。

1860年代後半には文明開化の様子を描いた作品が多く描かれるようになり、情報メディアとしての性格はさらに強まる。しかし、明治に入り新聞が発行されるようになってからは、浮世絵は次第に廃れていく。
長く芸術作品として認知されなかった浮世絵は、近代になってその価値を西欧で認められることとなる。浮世絵に見られる表現方法や日本人の感性は、西洋絵画に大きな影響を与えた。浮世絵は世界が認めた日本の芸術なのだ。

知っておきたい浮世絵師

東洲斎写楽

謎の多い天才浮世絵師。その活動期間はわずか10カ月である。生没年や出自、師弟関係はもちろん、写楽が誰なのかすら判明していない。短い制作期間にもかかわらず、版画140点ほどが確認されている。写楽の大首絵はデフォルメしたような描法が特徴となっている。

代表作：「市川鯉藏の竹村定之進」



慶應義塾所蔵

喜多川歌麿

美人画の第一人者。生年は不明。出身地も諸説あり、有名な割に謎が多い浮世絵師だ。幼少期に狩野派の絵師に学び、その後挿絵や錦絵を数多く発表した。1790年代には美人画家の人気は不動のものに。しかし、1804年に発表した「絵本太閤記」の錦絵で処罰され、入牢したと言われている。そしてその2年後、1806年に没した。

代表作：「当時三美人」



磯川浮世絵美術館所蔵

菱川師宣

浮世絵の祖とも言える人物。生年は不明。安房国(現在の千葉県)に生まれ、その後江戸へ出て狩野派など様々な絵画を学んだ。有名な「見返り美人図」は版画ではなく肉筆画で、贋作の疑いもある。

代表作：「上野花見の躰」

葛飾北斎

90歳まで活躍した浮世絵の巨匠。「富嶽三十六景」の作者として世界的に有名。1760年江戸に生まれ、19歳の時に当時役者絵で有名であった勝川春章に入門したが、35歳で勝川派を出る。葛飾北斎の名を名乗ったのは、39歳頃からわずか10年の間だけである。晩年には「富嶽百景」という絵本も制作した。

代表作：「富嶽三十六景 凱風快晴」
(磯川浮世絵美術館)

鈴木春信

江戸中期の初頭に活躍した、錦絵の祖とも言われている人物。生年はハッキリとしておらず、1725年頃とされている。確認できる初作は役者絵だが、後に美人画家として有名になり、それ以降は主に美人画に専念した。

代表作：「坐鋪八景 台子の夜雨」



千葉市美術館所蔵

歌川広重

景画の名手であり、「東海道五拾三次之内」の作者。1797年江戸に生まれ、両親の死後家職である江戸城防火の役職を継ぐが、その後浮世絵の世界に入る。「名所江戸百景」は広重の死によって全118枚で終結しているが、海外でもその評価は高く、「亀戸梅屋敷」と「大はしあたけの夕立」の2点を模写したゴッホの作品も残されている。

代表作：「東海道五拾三次之内」

鳥居清長

鳥居派三代目の初代清満に学び役者絵を描いた時期もあるが、その後「雛形若菜の初模様」などの美人画シリーズを描くようになる。「当世遊里美人合」で美人画家としての確固たる名声を得た。

代表作：「美南見十二候」



Yukihiko Watanabe

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜ぶたい」。

磯川浮世絵美術館

Koishikawa Ukiyo-e Museum



住所：東京都文京区小石川1-2-3
小石川春日ビル5F

電話：03-3812-7312

入館料：500円(団体・学生割引400円)

開館時間：11:00~18:00(入館17:30)

休館日：毎週月曜日、26日~月末

<http://homepage2.nifty.com/3bjin/>



松井英男さん

磯川浮世絵美術館 館長

今回、浮世絵の世界をナビゲートしてくれたのは磯川浮世絵美術館の松井英男館長。当館では毎月違ったテーマの浮世絵を観賞することができる。

お知らせ

「日本かぶれ」では読者の皆さまにご参加いただける様々なイベントを計画しております。伝統文化を体験するセミナーや伝統芸能を鑑賞する催しなど、日本をよりよく知るための機会としてご活用ください。詳細は当コラムと日経ビジネスアソシエオンライン(<http://mba.nikkeibp.co.jp/>)を通じて順次お知らせいたします。ご期待ください。